

## 証人尋問を終えて

2007.11.27 沖縄平和ネットワーク 村上 有慶

### 1. 7月27日 大阪地裁

皆本義博（原告側） 第三中隊長、赤松と行動ともにせず  
知念朝睦（原告側） 住民惨殺・朝鮮人惨殺認める。 当時の軍隊と住民の関係明確  
宮城晴美（被告側） 「隊長命令」はなかった。 「軍命」の存在明確に。  
手榴弾は事前に配布された  
助役命令説 宮平春子証言「軍命によって・・・」  
皇民化教育説 住民は自ら国に殉じたのか。

### 2. 9月10日 福岡高裁那覇支部にて所在尋問

金城重明（被告側） 軍命によって北山（ニシヤマ）に集結  
手榴弾は事前に配布された  
吉川勇助証言 兵事主任が村長に耳打ち = 天皇陛下万歳  
発火用意

### 3. 11月9日 大阪地裁

梅澤裕（原告本人） 3月25日 5人を『死ぬな』と行って帰した。  
助役の宮里盛秀が命令した。 宮平春子証言  
宮村幸延の念書 = 自分が下書きをした。 宮村文子証言  
「戦闘記録」を捏造。何度も書き直した。神戸新聞記事捏造。  
「沖縄ノート」は去年読んだ。  
宮城初枝のノート見たことは無い。  
軍の司令官は自分だ。手榴弾配布していない。住民証言全否定。  
赤松秀一（原告本人） 兄から話し聞いたことも無い  
「沖縄ノート」難しくて読んでいない。  
提訴のきっかけは、山本アキラに言われて。  
大江健三郎（被告本人） ・本土の沖縄の関係  
・戦後の軍事全面占領に対する本土人の意識の無さ  
・戦後日本人のあり方。沖縄人と本土人のひずみ  
「隊長命令」明記していない。隊長の名前書いていない。

### (証人尋問を通して分かったこと)

- ・「名誉毀損・敬愛追慕の裁判」としての前提が崩れた。仕組まれた提訴。
- ・教科書検定意見を想定した闇の取り組みがあったと思う。平和教育はどこへ行った。
- ・軍人に、沖縄戦への反省や謝罪の気持ちはかけられない。
- ・沖縄住民の戦時体験を全面的に否定した。戦時体験記録も否定。
- ・本土大手マスコミに、大江さんのような気持ちはほとんど無い。沖縄県民の状況に対する理解は深まっていない。これだけ平和学習修学旅行が来ているのに・・・。
- ・沖縄における大江岩波裁判認識がひろがらない。沖縄戦の真実が問われている。
- ・沖縄戦研究の統一認識が必要。(援護法問題を超えて)

以上